

自習形式で学ぶ Word, Excel, PowerPoint [2019 編] 訂正

2016 編の「復活の書」にはこの内容が含まれています。

p.1* 最下行 contana → cortana

p.22 「USB メモリの取り外し」の節で USB メモリの外し方の説明を行ったが、2019 年 4 月にアップデートされた Windows 10 のバージョン 1809 からは、ファイルコピー中でなければ USB メモリをそのまま抜いても問題ないようになった。

p.34 ここで行う練習問題で、data フォルダから読み込んだ TOKYO というファイルを practice フォルダに「Word 練習 1」というファイル名で保存すると記してあるが、「Word」と「練習」及び「1」の間に空白が入っているように見えるかもしれないが、これは後述するフォントの関係でそのように見えるだけで、実際には途中に空白は入れていないので注意してもらいたい。

p.39 3 行目からフォントに関する追加的な説明と練習問題があるが、Word の現行バージョンでは、練習問題の結果が確認できない。その理由も含め、これについては p.47 の「文字書式の細かい設定」の節で行うことにする。

p.42 2 行目にある『最後に、この段落の最後、「見飽きないものでした。」の後ろに 図 で貼り付ける。』を削除

p.47 「文字書式の細かい設定」の節を読み始める前に、まずは p.39 で読み飛ばしたフォントに関する追加的な説明を読んだ上で、以下の形で練習問題を行う。その際、この節の直前で上書き保存を行い、後は自由に練習して良いことになっているが（練習結果は残さない）、ここで述べる練習問題を行った上で上書き保存を行い（既に上書き保存を行っていても、特に問題は無い）、その後で上書き保存を行い、この部分の練習結果が残るようにする。

☐ 文書の最後に Windows III 123+== という行が 2 つあるが、上の方のフォントを等幅フォントの MS 明朝に、下の方をプロポーショナルフォントの Century に変更し、比較してみるのであるが、まずは最後の行のフォントを、ホーム フォントにあるフォントのボックスを使って Century に変更する。この結果は確認できるだろう。次に一つ上の行のフォントを、今度は等幅フォントの MS 明朝に変更してみる。作業そのものは行えるのだが、見た目の代わり映えはしない（全く変わっていない）。フォントのボックスの内容も MS 明朝ではなく、游明朝のままとなっている。何が起こったかを確認するために、この行が範囲指定されたままの状態、p.47 の文字書式の細かい設定の説明を読み進め、それに従って、作業を行う（p.48 の 1 行目「フォントが適用される。」まで）。フォントのダイアログボックスを見ると、日本語用のフォント(I)は MS 明朝となっているが、英数字用のフォント(F)の方は「+本文のフォント」となっている。このボックスの内容を例えば「(日本語用と同じフォント)」にすると、範囲指定した部分のフォントが MS 明朝のなり、Century に設定

した下の行との違いがはっきりするだろう。一方、一番下の行を範囲指定し、フォントのダイアログボックスを開くと、英数字用のフォント(F)は Century となっているが、日本語用のフォント(I)は「+本文のフォント - 日本語」となっている。つまり、ホーム フォントにあるフォントのボックスを使った場合、Century のような英文フォントを指定した場合は英数字用のフォント(F)にだけ適用され(これは従前と同様)、MS 明朝のような日本語用フォントを指定すると、(こうしたフォントは半角文字もサポートしているが)日本語のフォント、つまり全角文字だけに適用され、半角文字には適用されない(従前のバージョンでは全角、半角の両方に適用された)。つまり、半角文字に日本語用のフォントを適用したいときには、リボンからの操作ではダメで、フォントのダイアログボックスを使う必要があるということになる。

p.48* 2行目の「ツールバーでは」は昔の言い方。今は「リボン」

p.59 上から3行目の最後「段落記号だけが移動する」は「行頭文字(とタブ記号の表示)だけが移動する」の誤り

p.60 下から7行目及び6行目にある「ここでは段落を」は「ここで段落を」の誤り

p.66 上から16行目で、罫線の削除を行った際、「横の罫線の場合はセル結合となり、縦の罫線の場合は単に罫線を消去するだけというわかりにくいことになる」と記したが、どうもこれは不具合であったようで、縦でも横でもセル結合が行われるように治った(2016までと同じになった)ようである。バージョンアップ時のミスだったであろう。

p.98 上段にある練習問題において、「A16をB15に移動してみる。今度は、右に示すメッセージが表示される。」となっているが、このメッセージが表示されるのは、マウスのドラッグで移動を行った場合で、クリップボードにより移動を行ったときには表示されない。

p.119 「目盛線と凡例」の節の最後で「凡例の順序を変更する方法については、次節を読んでもらいたい。」としてあるが、これが述べられているのは一つ置いた p.120「データ系列の設定」節の後半(練習問題の後)となっている。

p.132* 10行目「表の下に 四角 で配置する。」は単に「表の下に配置する。」の誤り

* 一部の版では訂正済み